

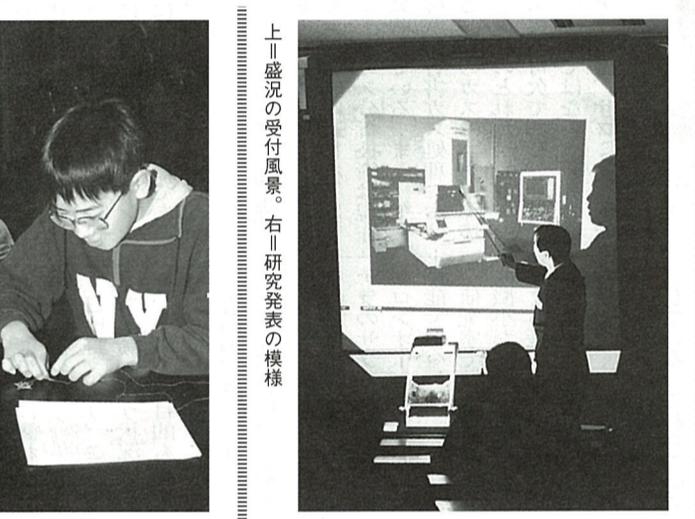
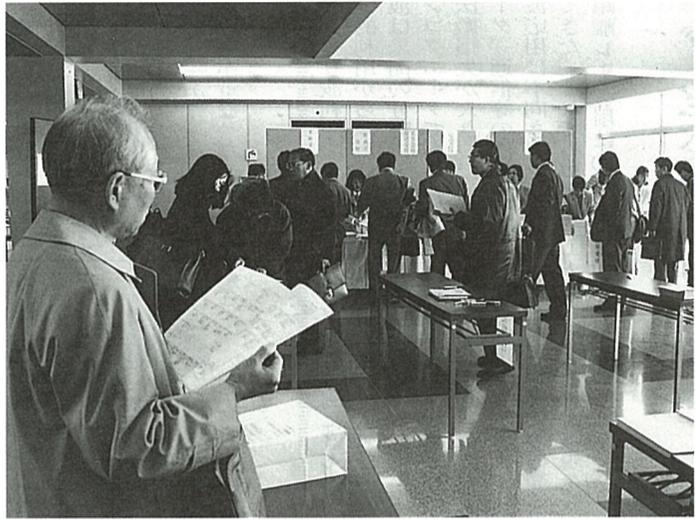
平成9年(1997年)5月10日発行

## 精密工学会春季大会 延べ参加人数3000人余りを得て 盛大に開催される!!

一九九七年度精密工学会春季大会は平成九年三月二十五日(火)から二十七日(木)にかけて本学キャンパスにおいて開催された。精密工学会は現在会員数約七千余りの大型の学会であり、この規模の学会の大会が本学キャンパスで開催されたのは平成三年の五月に開催された「塑性加工学会春季講演会」以来のことである。本年は学園創立九十周年、学園創立三十周年の節目にあたるという点からも意義深いものであったと思う。

大会の準備は去年の三月に二十名余りいる精密工学会員を中心として実行委員会(委員長村川教授、幹事有賀、古閑両助教授)を形成し、大学当局の御協力を得て進めてきた。大会のシンボルフレーズは実行委員会諸氏の圧倒的賛意により

「学会の性格と埼玉のイメージを連結した『微細から美彩まで』が選定された。大会中はおおむね天候にもめぐまれ、参加登録者約



「さる三月二十五日より三日間、『一九九七年度精密工学会春季大会』が、新装成った機械工学科実験研究棟および機械工作センターに彩りを添えるように、盛大に開催された。

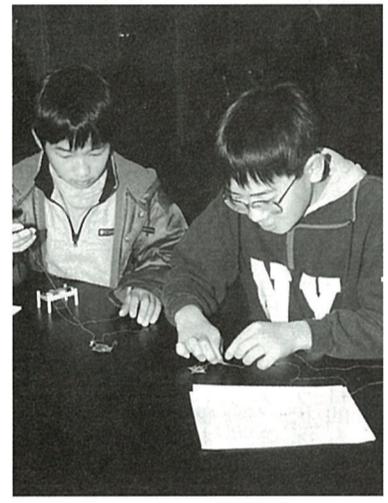
「この機会に多くの研究者の方々に、その勝れた教育研究環境や設備を目にして頂くことができた、ということであろう。

千五百名、延べ参加人員は三千名強と大変な盛況であった。大会中に行われた行事は

「各種関連会議であった。なりお開連イベントとして『小さな(小さな小さな小さな)ロボットのコンテスト』および『ジュニア理科工作教室』が催された。さらに付帯行事として竣工したばかりの



実行委員長  
村川 正夫  
機械工学科教授



上||盛況の受付風景。右||研究発表の模様

「要に応じて用意した。停電、球切れ等の事故を心配した各会場ともおおむね順調に講演が行われた。

「柳沢教授の司会により、まず実行委員長の挨拶の後、稲葉清衛門門学会会長(フアナツク樹会長)の挨拶があり、来賓の神馬学

「この間を利用してキャンパスの公開も

「九十年記念事業報告と実施する。

「馬学長が、『まずモノに学ぶ』という本学の学問の在り方・行き方を披露。次いで大川理事長が、本学で権威のある学会を開いて頂いたことに對して深く謝意を表し、その後なごやかに、パ



「『物づくり』の場、工房として提供することを目的に計画し、学内の流用可能な工作機械工具や資材をサポーターし、これを利用して自由工房から将来、学生が自由に発想した数々の夢が実際の『かたち』として実現されていくこととなる。

「明年二月二十四日(火)東京国際フォーラムを会場として『感性と工学』をテーマに、外部からパネリストを迎えて国際シンポジウムを開催する。現在決定しているパネリストは、有馬朗人氏(元東大総長・理化学研究所理事長、吉川弘之氏(前東大総長、ウォルガングM・ポーター氏(イリノイ州立大学教授、河合雄氏(国際日本文化研究センター)所長、司会は、小出五郎氏(NHK解説室主幹、パネリストとして、あと数名の方々に交渉中である。

### 完成間近い学生センター

ご覧のように、学園創立90周年の主たる事業のひとつである学生センターの斬新な建築空間が、いよいよ完成間近となった。現在、最後の仕上げであるインテリア工事が急ピッチであるが、月末には、予定通り竣工式を迎える運び。これで学園ライフの一層の活発化、中身の濃い活動に、大いにハズミがかかるものと期待される。

### 第十一回建築コンペの課題「ホビー・ハウス」に!!

全国の工業高校より、毎年多くの応募作品が集まる「日本工業大学建築設計競技」の本年度の課題が、「ホビー・ハウス」趣味を「楽しむ住宅」に決まった。この課題の目指すものは、

### ◆平成10年度推薦入試日程決まる!

\*推薦A方式  
出願期間: 10/1(火)~10/7(火)  
合格発表: 10/18(土)

\*推薦B方式(第1回)  
出願期間: 9/8(月)~9/30(火)  
面接: 10/1(水)→仙台 10/2(木)→新潟  
10/3(金)→岡山 10/4(土)→大学  
10/6(月)→松本 10/7(火)→名古屋  
10/8(水)→静岡 10/9(木)→大学  
合格発表: 10/18(土)

\*推薦B方式(第2回)  
出願期間: 12/1(月)~12/10(水)  
面接: 12/12(金)→大学  
合格発表: 12/20(土)

①敷地の形式は傾斜地  
②建坪率四〇%、容積率八〇%  
③構造は、自由  
④家族構成は、自由  
⑤趣味内容は、任意に規定、かつ具体的に不  
⑥他の条件に関しては、応募者が自由に想定し  
てよい。  
なお作品提出期限は、八月三十一日。例年通りすべて郵送とし、同日の消印まで有効とする。  
また入賞発表は、九月末日。入賞作品の展示は、本学大学祭(十一月一日~三日)の期間中。さらに受賞式は、同月三日に行う。

人々の生活観や暮らし方が趣味に基づいてますます多様化するなか、心豊かな住まいを高校生らしい発想で作りに上げてほしい、との点にある。  
応募要項の詳細は、すでに各工業高校建築科に発送済みだが、建築条件は、

「この課題の目指すものは、人々の生活観や暮らし方が趣味に基づいてますます多様化するなか、心豊かな住まいを高校生らしい発想で作りに上げてほしい、との点にある。」

# ●平成八年度学生生活実態調査 不景気かぜの中で「節約・節儉」へ

昨年十一月一日から十五日にかけて行われた「平成八年度学生生活実態調査」の集計が終わり、このほど報告書にまとめられた。

この調査は、本学の厚生事業等の基礎資料とするため、平成二年度、平成五年度に引き続いて行われたもので、本学学部在籍生の三〇％にあたる二九三名の学生を調査対象としている。前回の調査までは集計作業を外部業者に委託していたが、今回からマークシート方式を採用することで学内での集計処理が可能となり、集計作業の迅速化、並びに調査内容の漏洩防止のよりいっそうの徹底が図られている。

今回の調査結果の特徴は「節約・節儉」をキーワードとして表現することができる。これは平成五年度の調査のときにも見受けられた傾向であるが、長期にわたる社会の不景気の影響が重なった。



を反映してか、今回の調査にも引き継がれている。具体的な数字を示すと、「二ヶ月の生活費支出額」が自宅生では六万五千円から五万九千八百円に、自宅外生では十萬九千六百円から十萬三千二百三十二円へとそれぞれ減少している。

また、自宅外生の平均通学時間を見ても、九十分から九十七分に増加し、より遠くからでも大学近辺に下宿することなく通学していることがわかる。

最後の設問は「大学の要望を自由に記述するもの」だったが、「食堂の拡大」「学生駐車場の拡大」「学費負担の軽減」の三つに十名以上の要望が重なった。



日比野路子先生

東京都出身。聖路加看護(現在)学校卒。都庁、文部省を経て、白梅学園短期大学、滋賀県立短期大学、静岡県立女子短期大学看護科等の教授を歴任。国際的な活動も手がけられている。

## 心身の健康を保つには...

気軽に学生相談室へ出向こう!!

昨年、一号館に学生相談室が開設され、毎週金曜日に、ここに紹介の日比野路子先生が、その任に当たられている。言うまでもなく、当相談室は、学生諸君の悩みことの受け皿として開設されたもの。したがって、大学では学園生活を送るに際して、諸君が遠慮なく悩みを吐き出し、助言を受けていただくようお願いしている。ちなみに日比野先生は、略歴が示すように、この路のヴェテランで、いわば諸君の母上たちのように、やさしいお人柄である。今回は改めてご紹介を兼ねて、そのお考えの一端をうかがった。

（聞き手＝編集部）

——入学式から約ひと月、生活環境の変化の中で、いわゆる「五月病」と言いますが、虚脱感に襲われる時期は？

日比野 そうですね、これまで大学受験という状況に追われ、一応その目的も達成したけれど、大学には入ったものの、さて今度は、いったい何を目標に勉強した

意識して、気持ちを前向きに持ってほしい。

——気持ちを切り替えるよき方策は？

日比野 いちばんいいのは、早く気軽に話せる友達をつくること。で、友達づくりの具体的な方策としては、何らかのクラブに入ったり、「部活」をするのが最良の道でしょうね。

よく「大学という所は勉強の場だ。だから部活などは必要ない」と言う向きもいらつしやいます。そういう考え方は、狭量に過ぎると思います。つまり、大学に進学したのですから勉強にはけむことは自明のこととして、同時に大切な点は、人格形成のための素養をしっかりと身につけなければならぬ、と私は思います。そして、そのためには「部活」を通して、先輩や後輩たちとの交わりの中で、多様な物の考え方・身

の処し方に接するのが理にかなった方法なんです。

——いわゆる左脳(理論面)だけではなく、右脳(情勢や感性)も、同時に磨かなければならない、と？

日比野 その通りですね。つまり大学で技術科学の専門知識を深めると言っても、その知識というのは、やはり人々の幸せや、よりよい生活の向上に寄与するものでなければなりません。言い換えば、学問に取り組む姿勢の前提として、人間に対する良きまなざし、慈しみがなければならぬ、それなくしては生きた学問と

組む姿勢が備わっているわけですからね。

じつは私、昨年十一月の学園祭に初めて大学を参観させて頂いたんですが、そのとき気付いた点は、廊下で学生たちと目と目が合ったとき、寂しげに俯いてしまっている人がおおいまして、あ、これは何か変だな、と感じたんです。で、私としては、そんなとき「どうしては、そんなとき「どうしては、そんなとき」を掛けたらいいかな、と声掛けたいわけですね。

でも幸い学長先生のお取り計らいで、実際に学生相談室を担う立場になりましたので、新入生のオリエン

ることは、互いに気分がいいことだし、何より気持ちを前向きにする第一歩ですからね。

——「理工系は暗い」という世評が立つておりますが、それは専門色が深いという強いゆえのこと、だからこそ意識的にでも積極的な声を出して他者とのコミュニケーションを図る姿勢が必要ではないか、と思うんです。で、それが出来れば、友達づくりの回路も開かれるし、それによって、先ほど申し上げた「人間性」も自然に身に付くと思うんです。

それから、気持ちの切り替え方法として、日本工業大学は、たいへん自然に恵まれているわけですから、時にグラウンドの周辺などで大きな声を出して、鬱積した気持ちを発散するのもいい、と思います。自然は物言わないけれど、その細やかな表情に触れれば、かならず語りかけてくるもの、教えられるものがあるはず。ですから「自然との接点」を、ぜひ大切にしたいですね。

——自然も含めて、多元的に物事を見なさい、と。

日比野 要は、物事を多元的にとらえる目が必要ということですね。ですから自然に加えて、新聞をなめるように読むことも、よく勧めたい。なぜかと言えば、そこには「命」というものの大切さをはじめ、いろいろな考え方や価値が投影されており、いわゆる独りよがりの狭い見方を洗い直してくれるモノサシが溢れているからです。

ともあれ、人間に悩みごととは付きもの。ですから何かあったら独りで抱え込まず、遠慮なく私の所に相談に来て下さい。

平成九年一月から三月末にかけて、電波センサの研究にこつとこつと取り組んできた。電波センサの研究にこつとこつと取り組んできた。電波センサの研究にこつとこつと取り組んできた。

号との識別法で、特に静止に近い目標識別は難しい。研究室ではレーダを用い、目標形状に固有な空間周波数を用いた独自の目標抽出法を研究している。

サブミリ波利用の現状 工学のオゾン層観測に盛んに利用されてきた。ガス分子の放射吸収理論は、五十年代にレーザの父タウンズ等によって確立され、電波天文学への応用も提案されている。近年の半導体等の発達によって、それが実現されるに至った。

サブミリ波は、ミリ波と赤外線の間位置する電波で、その特徴から将来の可能性として、次世代産業環境及び通信技術等への応用が期待されている。しかし工学的応用は殆ど未着手の状況にある。本装置は、サブミリ波の新しい応用の可能性を探査しようとするものである。

○円

サブミリ波は、ミリ波と赤外線の間位置する電波で、その特徴から将来の可能性として、次世代産業環境及び通信技術等への応用が期待されている。しかし工学的応用は殆ど未着手の状況にある。本装置は、サブミリ波の新しい応用の可能性を探査しようとするものである。

は言えないし、将来よきエンジニアや研究者になり得ない、と思つてます。

その意味で、ぜひ何らかの「部活」に参加して、ゆたかな人間味を養ってほしい、と思つてます。

——しかし、残念ながら数多いのが実状です。

日比野 問題は、その点です。言ってみれば「部活」に参加する人は、まったく心配は要らないんです。つまり、それだけ物事に取り

テリションで、「廊下で歩き交つた際には互いに声を掛け合おう」と話したら、俄然、挨拶の音が飛んでくるようになりました。で、私は、いまそれだけでシメタ！と思っております。

——学生部では、かねてより外来者を含めて挨拶をするように指導してありますが、できれば「学園創立九十周年」を節目に、そういう良い習慣を徹底したいものです。

日比野 挨拶の声を発す

### NOW !!

## レーダ実験室の 目指すもの



渡辺康夫教授 (電気電子工学科)

波とは周波数が100ギガ帯から10テラ(波長3mm)30μmの電波を指し、赤外線に近い、周波数が最も高い電波である。当該装置は周波数が370ギガ(波長0.8mm)までの電波の振幅及び位相を計測できる。工学用装置の分野で、この値は従来水準の三倍で、最高値である。二、

特殊センサ用に100ギガ帯と電波応用はサブミリ波の入口に迫っている。

一方科学の分野では、サブミリ波はガス分子の放射スペクトラムを豊富に含む特徴と、ラジオと同様に高精度チューニングできる利点によって、七十年代から宇宙のガス分子観測や大気

の吸収放射特性をもつCOガス等から始めて、順次高周波が必要な複雑なガスへと進めたい。

四、微小変位計測法の研究 電波を物体に照射し、物体の位置を前後に僅かに変化させると、反射波の位相は変化する。このとき、波長が短いほど大きな位相変化

を計測できる。このため10テラのサブミリ波では、マイクロメートルの変位が検知可能である。

研究室では、構造体表面の微小な凹凸や時々刻々変化する歪みの観測、さらにプラスチック構造体の表面だけでなく内部の歪みも画像として観測することを提案している。これらの研究も低域サブミリ波を用いる計画である。

五、その他 前述のような近距離の高精密画像レーダや大容量ポイント通信等の従来型応用も考えている。

以上の応用は、サブミリ波が光と電波の両方の性質をもつことに基づくのだが、探索は十分ではない。さらには有効な応用が待ち受けている予感と、サブミリ波工学を萌芽させたい熱意を抱いている。

平成八年度私立学校施設整備費補助金追加申請の交付が決定し、以下の装置が導入された。

★「サブミリ波基礎実験装置」↓電気電子工学科渡辺康夫教授(事業経費〇七九七四〇、〇〇〇円/補助金決定額三五、八〇〇、〇〇〇円)

本装置は、X線回折現象を利用し、材料内部に含まれている元素の化合状態を解析するものである。材料の化合状態を評価する上で最も基本的なものであるが、材料の物性を明らかにするために、不可欠なものである。

「サブミリ波基礎実験装置」↓電気電子工学科渡辺康夫教授(事業経費〇七九七四〇、〇〇〇円/補助金決定額三五、八〇〇、〇〇〇円)

## 私立学校施設整備費補助金 サブミリ波基礎実験装置 などに交付される!!

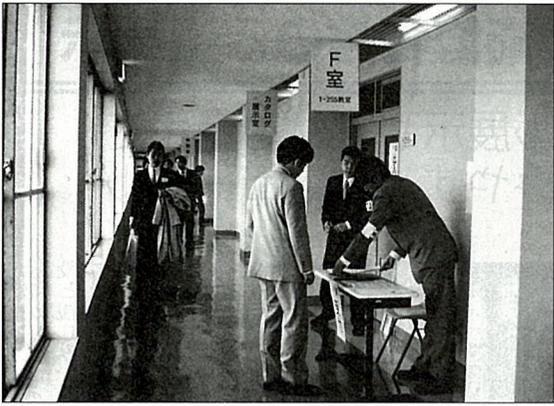
平成八年度私立学校施設整備費補助金追加申請の交付が決定し、以下の装置が導入された。

★「サブミリ波基礎実験装置」↓電気電子工学科渡辺康夫教授(事業経費〇七九七四〇、〇〇〇円/補助金決定額三五、八〇〇、〇〇〇円)

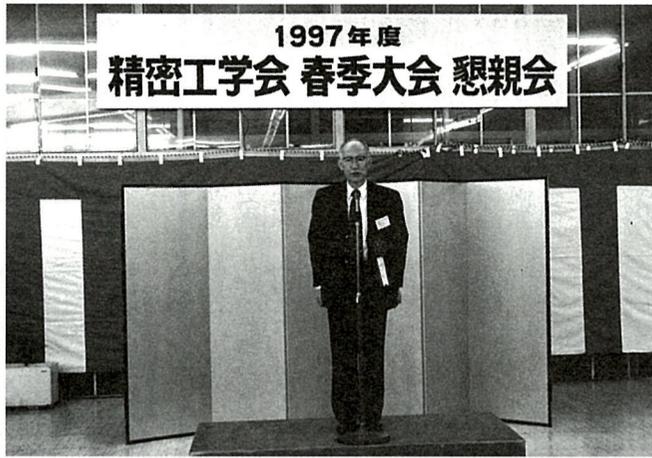


クラブの後輩たちに送られる卒業生(平成7年度)

クラブの後輩たちに送られる卒業生(平成7年度)



学生たちも案内役など裏方として奮闘



懇親会で歓迎の挨拶を行う神馬学長



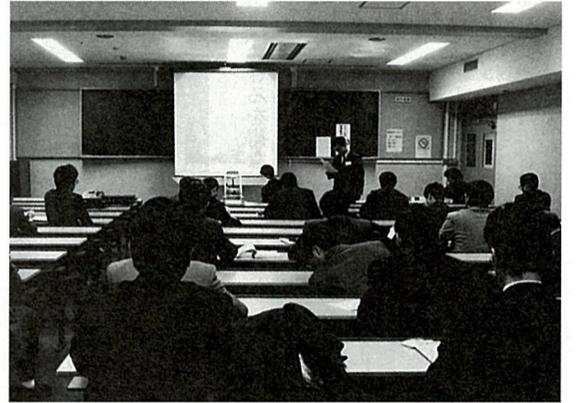
SLを興味深げに見学する研究者たち



ロボットの動きを追う健気なまなざし

# 「精密工学会」写誌

約3000人余りの研究者が集った活況の精密工学会春季大会……。これらは、その記念すべき息吹を伝える表情である。



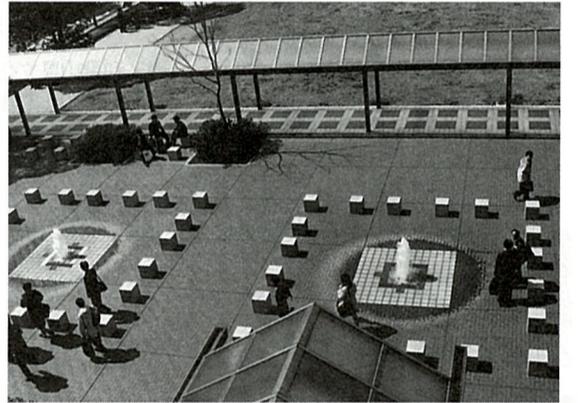
29にも及んだセッションの発表風景



「ロボットコンテスト」の審査発表風景



懇親会場に臨む稲葉会長(左)、大川理事長(中)、神馬学長(右)



キャンパス内を行き交う研究者の姿



やさしくロボットづくりを教える林輝先生(桐蔭横浜大学)と真剣に聞き入る子供たち



研究者どうしの話がはずむ懇親会の模様



女性軍もぐっと増えました



高校の先輩と記念写真



晴れの入学式を終えて



ハイ!「部活」は当方で……



歓迎コンサートもあるよ!

# '97 新入生歓迎 グラフィティ

今年も学園に多くのフレッシュな仲間が加わった。その喜びの日を、学生自治会アルバム委員会のレンズが捕えた。



講演会に来てね!

# 工業技術博物館のSL展示

## パネル展示やAVを備えて 親しみやすくリニューアル



壁面にあしらわれたパネル展示



「閉そく器」の運行システム説明用の模型

工業技術博物館のSL展示館が、従前と比べて、一段と親しみやすくリニューアルされた。

109号のメカニズムの特色を、パネル展示やAVを用いて一般参観者にも理解が届けようとしたこと。第二は、現在は具体的に知るすべがない往時の運転シテムがわかるように、模型展示がなされている点にある。

パネル展示は、大井川鉄道を活躍していた在りし日の姿や、博物館への収蔵に当たっての修復作業の様子さらに、2109号の基本仕様およびその機械的特徴を、懇切丁寧に図示。またAV面では、やはり大井川鉄道時代にダイナミックに立ち働いている勇姿や、収蔵までの経緯などを克明に記録したビデオテープが装備されている。

品である合図灯、手旗、機関手帳、懐中時計、ハンマーなどの小物類。はたまな改裝は、まだ一部を残しているが、これでSLファンや中高生たちの人気も、より一層高まるものと期待される。

### NIITオープンカレッジ

## 充実した内容で開催

昨年年度公開講座の大幅な見直しを行った生涯学習センターでは、平成九年度より、より多くの地域の方々へ、親しんで受講いただけるよう、さらにその内容を拡充して開講する。

その内容については、陶芸・油絵・水彩画・彫塑・木版画・英会話等従来の各教室を継続して開講するほか「陶芸」及び「英会話」をそれぞれ一クラスずつ増設、合計六科目十四クラスで開講する。また開講期間は、昨年度と同様、春、秋、冬季の年三期各十回、年三十回講座である。

現在のところ、新年度の受講応募数は二百十名、昨年度より五十名増加しているが、センターとしてもさらにその内容を充実させ受講者の要望に応えるべく種々の検討をすすめている。また、高校・中学の先生方を対象とする「文部省認定教育職員免許法認定公開講座」は、今年度が三回目の開講となるが、関係学校等への案内は、五月中旬の予定である。講座期間は昨年と同様七月の下旬より二週間であるが、昨年より一科目増の五科目で開講することになっている。

その外、地元宮代町と共催の「寿大学」及び「異文化講座」についても、本学教授陣等に依頼し、それぞれ四回の講座で開設される運びである。

公開講座等に関するお問い合わせは、生涯学習センター(0480-344111) (代)担当(谷本)まで。

### 近事片々

今年の三月初旬、大学の「建築史実習」に参加した後輩たちが、県内の鎌倉時代から江戸時代までに建てられた二十棟余りの文化財建造物を見て廻っていたのと同じく、久しぶりに渡辺・波多野両先生と学生たちに接することができました。

私にとって千載一遇となり今の仕事の糧が十二分に得られ、その布石となつていきます。

その後現在の所属団体に身を置き、既に十五年余りを神社・寺院・住宅等の文化財建造物の保存修理の設計管理に携わつてまいりました。

修復するときは、無闇に新しい材料に取替えることを考えずに、再利用することをまず第一に考えます。しかし、取替え

しなれてきた古建築を、未来永劫の保存のために修理するわけですからその責任は重大です。ひとつ間違えれば歴史を消してしまいかねず、判断の重要さに眠られぬ夜を過ごすこともしばしばです。一昨年の阪神淡路大震

しかし、後世の修理には構造的な欠陥を補って余りあるものも少なくなく、その価値も認められなければなりません。また、新たな構造補強も必要となり、構造計算等の得意な分野への対応も求められ頭痛の種となっております。今後は、構造解析に長けた同窓の諸兄にも協力を求めなければならぬでしょう。

顧みれば、中学の修学旅行で薬師寺東塔を仰ぎ見たときの感動と驚きが、無意識のうちに古建築を扱う仕事へと導いてくれたのかも知れません。

運命的な出会いといつては大きすぎますが、その塔と対峙したときの静寂と緊張感を忘れることはできません。

まだ経験も浅く、より以上の修練が必要となりますが、学生時代に受けた諸先生方の講義を思い出しながら仕事に励んでいきたいと思っております。

(写真右佐藤さん)

### OB便り



## 「温故知新」古材を活かす

佐藤 信芳 建築学科(第10期生) (財)和歌山県文化財センター文化財建造物課

在学中から参加していた「建築史実習」で、関西を中心に文化財建造物を見て廻っていた頃が懐かしく思い出されます。

思い返せば、建築史研究室で先輩の卒業調査の手伝いや、先生ご自身の調査研究の手伝いもさせていただきました。

卒業後も先生の手伝いを続け、建築史研究を生き業とする仕事につきたいと思うようになりました。

古建築の修理は、星霜を経て傷んだ建物を丁寧に解体し、腐った部材に埋木や矧木などの修理をして再び旧の通りに組立

ています。この仕事は、ざるを得ない部材もあり現場事務所に常駐して、設計から現場管理までのすべてを行って仕事を進めます。

この辺りの斟酌の加減が難しくもあり面白いところ。古材を活かすも殺すも担当者の判断に委ねられております。

幾百年もの間、地域の人たちに愛着をもって親

愛されてきた。災害以降は、構造補強についての論議が喧しく、修理の方法が大きく方向転換しつつあります。これまでは、建物が増え、最後の姿・形が一番価値があるものとして、後世に修理された部分はすべて撤去して復原が行われてきました。

### 中国・沈阳市より交流促進団が来学



三月三十一日、中国の沈阳市人民対外友好協会より留学生別科への派遣ならびに国際交流促進の目的で代表団が来学。学長と面談した。

### 新任教員プロフィール

町田 進客員教授(機械工学科) 昭和十一年十月三十日生まれ。同四十四年三月、東京大学大学院数物系研究科船舶工学専門課程博士課程修了。工学博士(東京大学)。現東京大学教授。

成田 健一助教授(建築学) 昭和三十一年八月十二日生まれ。同六十六年六月、広島大学大学院工学研究科博士課程後期環境工学専攻単位取得満期退学。工学博士(広島大学)。

丹澤 祥晃助手(機械工学科) 昭和四十二年十一月十日生まれ。平成八年三月早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程単位取得満期退学。前早稲田大学理工学総合研究センター助手。

森 真作教授(電気電子工学科) 昭和七年八月十九日生まれ。同三十七年三月慶應義塾大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程単位取得満期退学。工学博士(慶應義塾大学)。前慶應義塾大学理工学部教授。

山田 秀美教育技術員(情報工学科) 昭和三十年十一月二十七日生まれ。平成二年三月、立教大学理学部物理学科卒。前英進国際情報専門学校勤務。

成田 健一助教授(建築学) 昭和三十一年八月十二日生まれ。同六十六年六月、広島大学大学院工学研究科博士課程後期環境工学専攻単位取得満期退学。工学博士(広島大学)。

丹澤 祥晃助手(機械工学科) 昭和四十二年十一月十日生まれ。平成八年三月早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程単位取得満期退学。前早稲田大学理工学総合研究センター助手。

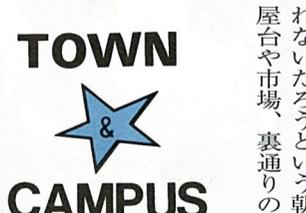
森 真作教授(電気電子工学科) 昭和七年八月十九日生まれ。同三十七年三月慶應義塾大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程単位取得満期退学。工学博士(慶應義塾大学)。前慶應義塾大学理工学部教授。

山田 秀美教育技術員(情報工学科) 昭和三十年十一月二十七日生まれ。平成二年三月、立教大学理学部物理学科卒。前英進国際情報専門学校勤務。

成田 健一助教授(建築学) 昭和三十一年八月十二日生まれ。同六十六年六月、広島大学大学院工学研究科博士課程後期環境工学専攻単位取得満期退学。工学博士(広島大学)。

丹澤 祥晃助手(機械工学科) 昭和四十二年十一月十日生まれ。平成八年三月早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程単位取得満期退学。前早稲田大学理工学総合研究センター助手。

森 真作教授(電気電子工学科) 昭和七年八月十九日生まれ。同三十七年三月慶應義塾大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程単位取得満期退学。工学博士(慶應義塾大学)。前慶應義塾大学理工学部教授。



建築学科伊藤研究室の留学生劉さんの母国、台湾に「宮代でアジアと交流する会」のメンバーとして訪れたのは昨年四月の事でした。

参加者は私を含めた町民四人と伊藤教授、日本語別科の黒田先生です。鉄道、バス、タクシーとあちこちをドライブして、あきない思いでした。

こうした取り組みにより宮代町民と留学生とのきずなや交流は、前にもまして深いものとなったような気がします。

「宮アジ会」では台湾の他

にも韓国ツアーも留学生のご案内により実施しました。

これらの旅の返礼という意味もこめ、十二月には約十五名の留学生と日本人による「喜多方バスツアー」を実施し「雪景色」を楽しんで頂きました。

「精密工学会」が盛大に開催されました。数多くの研究者の方々が、このキャンパスを訪れ、研究発表を行い、また学内を見学されるなど日本工業大学をより多く知っていただくにはとても良い機会でした。学問の府として、学会の大小にかかわらず、本学で開催されることは、名誉であり喜ばしい限りです。地元の小学生に呼びかけ、ジュニア理科教室を開催。「物づくり」の楽しさを体感してもらいました。

▼年度が変わり本年度も新任の先生方が着任されました。本学園の建学の精神を体した、すばらしい研究・教育活動を展開してくれるものと大いに期待するところであります。▼学生相談室の日比野路子先生にインタビューを行いました。心身の健康の問題は、学生に限らず私たちにとっても最大の課題であり関心事です。悩める時相談室を訪れてみるのが解決の第一歩かもしれないと思っております。

### 編集後記

表